

# 学級経営における基礎的資質能力育成に関する試み

## —教職ゼミにおける教育実践報告—

矢田貞行\*

### 1. はじめに

毎年4月の新学期が始まると、いつも気になることがある。それは、この3月に学窓を旅立ち、新任教員として巣立っていったゼミの卒業生たちのその後のことである。彼らは、教員採用試験に合格して正規の教諭として、あるいは来年の合格を目指す常勤・非常勤講師として、教壇に立って児童生徒を前に悪戦苦闘している姿を思い浮かべる。さらには、教職大学院に進学して大学院生として、来たるべき学校現場に備えて研鑽を積む者もいる。4月早々、教育実習や教職ボランティア、インターンシップ、そして大学での僅かばかりの教師の卵としての経験だけを持って、今日ブラックと揶揄されて久しい学校現場で日々悩み苦しみながら、時には教師としての喜びも味わいつつ、学び続ける卒業生たちの奮闘振りや苦勞に思いを馳せる。

そんな思いを巡らしながら、今手許にある中村健一著『策略：ブラック新卒1年目サバイバル術』という本を紐解いている。この書物は、新卒1年目の教員を対象にした処世術とも言える啓蒙書である。同書は、初任教員が教育に関してははずぶの素人であるにもかかわらず、ベテラン教員らと同じような条件、環境の下で学級担任を持たされ、校務分掌も果たしながら学校という組織の歯車的一端として働く術を赤裸々に語り、何も知らない、できない初心者が、いかにして学級経営を行い、学習指導・生徒指導をこなして、最大の難敵とも言うべき保護者対応を切り抜けていくかを経験的に教示する書物である。

ところで同書は、冒頭から新任教員に対して厳しい言葉を浴びせかける。「教育実習は、指導教官が作った学級という土台の上で、授業がたまたまうまくいっただけだ」(中村, 2021, p.13)、「教育実習は、経験のない学生・初心者が熟練教員に学級づくりをしてもらったうえのおままごとに過ぎない」(中村, 2021, p.14)、「1年目の初々しさは、ハンディこそなれ、武器にはならない。子どもも保護者も本音は、ベテランに担任をしてもらいたい。学級崩壊やいじめに遭いたくないのは、当然の欲求である」(中村, 2021, p.17) 云々と手厳しい。

しかし、これらの指摘はいずれも真実である。学級づくりの土台があつたうえに、授業づくりがあり、学級崩壊をしているクラスでは、どんな素晴らしい授業をしても授業自体が成立しない。それゆえに、中村が言うように「しっかりと策略を巡らせて、初めての学級づくりに初任者は当たる必要がある。……いきなりプロとして初任者が担任にならなければならないので、その怖さを知れ」ということなのである(中村, 2021, p.15)。

さて、前置きが長くなったが、教師にとって最も重要な職務は、教師の2大指導領域であると言われていた学習指導と生徒指導である。しかしながら、上述のようにこれらの領域における職務を遂行するためには、児童生徒との人間関係や信頼関係が構築されていないとそもそも授業が成立し得ない。まして況や学級が崩壊していると、教師の指示さえ通らず、まったく授業のみならず、学級内外の活動、学校行事や学校内の教育活動への参加すら不可能な機能不全の状態に陥ってしまう。詰まるところ、学級経営が正常

\* 東海学園大学スポーツ健康科学部

に行われてないと、学習指導も生徒指導も成立しないのである。

こうした状況や毎年卒業生から寄せられる発言や耳に入ってくる噂などを聞くに付け、専門演習Ⅲ（4年次春学期）において学級経営の意義、担任としてその重要性について改めて認識を新たにしている。以下、本稿では令和4年度春学期における専門演習Ⅲの授業報告を行うことで、学級経営を中心とする養成段階における基礎的な教員の資質能力育成の一端について論考を進めたい。

## 2. 授業の概要とねらい

### 2.1 概要

まず、専門演習Ⅲの授業の初日（第1週）に、表1のような授業概要を学生に提示し、半年間の授業の進め方とその意義（「なぜそれらの学習が教員になるため、また教育実習、教員採用試験にとって必要なのか」）について説明をして、演習個所の分担を決定している。

その際、イラストを用いた資料を別途パワーポイントで作成し、4月から7月に至る日程を提示する。そして、その中で重要な教員採用試験の願書の記入、出願、教育実習の事前打ち合わせから実習本番、さらにはその事後指導や、教員採用試験（1・2次）受験に至る日程、その後の秋学期の予定やなすべき事柄等についても、詳細な説明を行うことにしている。なお、令和4年度は全員（8名）玉川大学小学校特別課程を履修している学生であり、小学校教員志望である。

令和4年度は、PART I、PART IIに授業を分け、PART Iでは朝の会の司会者の学生に①児童生徒の出欠、②健康観察、③漢字の練習と解答、④教師のショートスピーチを行わせた。その後、担当教員（著者）が教職教養、教育時事についての解説とそれに関連したDVD視聴、教員採用試験の過去問の解答・解説を行った。

3週間の教育実習を挟んで、PART IIでは教員採用試験（2次）において多くの自治体に取り入れられている場面指導の練習を行わせ、その際2年次の学生が評価者となる協同学習の形態を採った。

表1 授業概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 朝の会の司会</li> <li>◆ 教採頻出漢字や教育専門用語の漢字の学習</li> <li>◆ 教職教養の受験勉強：教職教養、教育時事についての解説とそれに関連したDVD視聴、教員採用試験の過去問の解答・解説</li> <li>◆ 場面指導</li> </ul>
---

### 2.2 ねらい

本授業のねらいの1つは、教員採用試験対策にあることは疑いの余地がないが、他方もう1つは担任としての学級経営の指導力の基礎を培うことにある。勿論、言うまでもなく新任教員になったらまず取り組まなければならないことは、学級づくりであり、4月の新学期開始前から教師が井一番にやらなければならないことである。学級経営の内容、すなわち担任教師の仕事については、次のようである（大前，2014，pp.68-69）。

- ① 学級の事務的仕事（4月にまず行うこと）…名簿作り、学級環境の安全整備、机と椅子の整備、掲示物の準備と掲示、週案の作成と管理、指導要録の作成と管理、学級通信づくりを児童生徒が新学期に学校にやって来るまでに行う。

- ② 学級集団の統率…集団としてまとまりのない単なる所属集団の子どもたちを導いていく。学級担任として、子ども集団を統率していく力、すなわち次第に自律的な行動を促していく指導力も問われていく。
- ③ 学級目標づくり…学級開き直後から、学級目標をつくり、それを基に学級を実際に運営していく。学級の望ましい姿を教師と子どもが考え、子どもの願いを反映させ、目標を教師と子どもが共有する。
- ④ 学級を円滑に運営していくための組織やシステムをつくる。たとえば、日直、当番、係活動、班。活動を子どもたちが主体となることで、充実した楽しい学校生活を送ることができる。
- ⑤ 学級や学習のルールづくり、集団生活を送るためのモラルやマナーの指導の必要性があり、ルールの共有化を図っていく必要がある。
- ⑥ 学級開きから1週間で教師が学級経営の基本方針を開陳することや、新生活を始めるうえで子どもたちを安心させるための指導、この間どのような指導や準備の必要の全体像を把握していく必要がある。
- ⑦ 最近では、子どもたちの意見を学級経営に取り入れれたり、学級経営に彼らが参画したりする手法も見られるようになってきている。子ども参加の手法を学んでおく必要もある。
- ⑧ 集団づくり、すなわち集団を学級としてまとめる手法が必要とされる。また、集団になじめない子ども、トラブルを起こす子どもなどへの個別指導も求められる。さらに、学校行事等において、集団としてのまとまりが問われ、集団行動の指導法、集団を把握し指導する方法（ソシオメトリック・テスト、Q-U等）を学ぶ必要がある。
- ⑨ 子どもたちをリーダーとして育てていくリーダーシップ育成法や、リーダーに従うフォロアーシップ育成法なども求められる。
- ⑩ イベントを学級や校内で行う際には、集団としてまとまる集団づくりが求められる。
- ⑪ 学級経営と授業づくりは、相互に関連しており、4月当初単なる所属集団に過ぎなかった学級が、やがて子ども同士が協働して学習する準拠集団へと発展させることもきわめて重要である。
- ⑫ 学級の差別構造（たとえば、「スクールカースト」）をなくすための学級経営上の取り組みも行われている。学級では、担任が直接指導する役割を担っており、アンケート調査や教育相談、情報収集など他の教師との連携、学年・学校全体の取り組みを長期間に渡って根気良く、粘り強く継続してことが必要である。
- ⑬ 問題行動に走る子ども、基本的な生活習慣が身に付いていない子ども、不登校の子どもなどに対応する手法も学んでおく必要がある。
- ⑭ 特別な支援を必要とする子どもたちへの支援も求められており、個別の指導計画の作成、通級指導教室担当教員、養護教諭や特別支援コーディネーターとの協働・連携も求められる。また、それと同時に学級すべての子どもたちに対して、インクルーシブ教育やユニバーサルデザインに基づく配慮も必要とされる。
- ⑮ 保護者や地域との連携、SCやSSWとの連携も必要とされている。
- ⑯ 学級経営自体のマネジメント（組織的計画的な学級経営を行うための学級経営案の作成、学級経営を行っていく上での理論等）も求められている。

このような多岐にわたる学級経営について、担任教師として行うべきことを学生に教授し、熟知させることがまず肝要である。勿論、これらのすべての事項を修得させることは当然無理であり、来年4月になって学生たちが受け持つ児童生徒らとガチンコ勝負で取り組まなければならないことであるのは事実である。しかし、その一端について、教師の大変さを事前に知らせておくことは、非常に重要であると思わ

れる。学習指導、生徒指導が重要なことは、学生たちも臆気ながら周知はしているが、その根幹をなすのが学級経営であることを熟知している者は少ない。まして況や、このような学級経営の詳細については知る由もなく、それだけにさまざまな場面に渡って予め必要な事項を全体的に把握しておくことは必須の事柄である。

なお、余談ではあるが、本学の卒業生に対し新任教師としてどのような学級経営を行ってきたのかについて尋ねてみると、最初は見様見真似で新学期早々子どもたちとガチンコで向き合い、自己流のやり方で自らの学級を創り上げてきたことを語る者が多い。学習指導ならば学習指導要領や教師用の指導書、生徒指導ならば生徒指導提要があるが、学級経営に関しては種本も指導書も本来あり得ないからである。しかし、我流なりの学級経営に取り組んだ彼らも、2学期になると、学年主任や年配教員、さらには校長、教頭の管理職からの指導や助言、手解きを受けている。学級の基礎固めをやった後は、さまざま校内の経験者からサポートを受けつつ、学級の指導力を身に付けつつあるようである。

また、現行の学習指導要領の下では、個別最適の学習と協働学習によって主体的、対話的ならびに深い学び、所謂“アクティブラーニング”を可能にするものでなければならない。そこにおいては、1人1人の児童生徒の多様性を斟酌する必要がある。さまざまな問題を抱える子、心が未発達の子、特別な支援を必要とする子、外国籍の子等々、誰1人取り残さない、これまで大学の教員養成の場では出会ったことのない子どもたちとの日々の葛藤の中で教育実践を行わなければならないのである。このような場面を想定して学級経営の力量をどのように育んでいくかが、今後の教員養成の大きな課題の1つであることは間違いない。

### 3. 内容

#### 3.1 PART I

##### (1) 朝の会

まず朝の会では、担当学生が児童生徒役の学生の出欠について、名前を呼んで1人1人の健康状態の確認を行っている。その際、表情や声の様子など詳細な面にわたって観察し、瞬時に健康状態を把握することが重要であることは言うまでもない。同時に、教師の何気ない声掛けも併せて大切である。勿論、自明のことであるが、教師の笑顔がここでは殊の外重要であることは論を待たない。笑顔で始める1日の学校生活のスタートラインとして、学生には児童生徒への笑顔の大切さを説いている。

また、子どもたち1人1人の様子を把握するために、名前をしっかりと呼んでその様子を良く見ること、場合によってはその心情や気持ちまで読み取ることの大切さを学生に話している。

次いで、漢字の練習に入る。ここでは、教員採用試験1次の一般教養や専門教養（小学校専門）の過去問を取り上げている。この時期4年次の学生は、さすがに教員採用試験の受験勉強に本格的に取り組んでいるだけあって、誰1人分らない漢字をスマホ等で調べることなく、実力で解いていたようだ。黒板に指名した学生が解答し、その答え合わせを行った。後で尋ねてみると、概ね7～8割、良くできている学生は、毎回9割以上の解答率であった者も見られた。

次いで、教師のショートスピーチを行わせ、その際身近な出来事を話題に選んだり、現在新聞等で取り上げられているトピックス、あるいは簡単なゲームをやったりして場を盛り上げている者もいた。児童生徒に1日の良いスタートを始めるに当たり、興に入らせて学習へのモチベーションとすることはとても大切なことであり、教師の腕の見せ所の1つであると言える。

##### (2) 教職教養の学習

ここから本論に入るが、学習内容については、表2の通りである。

ここで取り上げる教育時事については、教員採用試験の教職教養として出題されるばかりではなく、論作文、面接、集団討論、場面指導等においてもその知見が活用できる。無論、教員として必要な最新の教育動向、教育改革の知識として当然知っていなければならない事柄であり、単に知識技能の修得に留まらず、それについてどのように教師として考え行動するのか、その教育学的知見を学校現場でどのように活かそうとするかについても当然各学生が問われる。

表2 専門演習Ⅲ（4年生）火4 423教室 日程表（令和4年度）

1	4月12日	朝の会の進め方（講義）、教採漢字、教育時事①教育時事ベスト10
2	4月19日	朝の会、教採漢字、教育時事②不登校・フリースクール・校内フリースクール・不登校の原因 DVD：おはよう日本、令和3年度調査（不登校増加・長期欠席、校内フリースクール） DVD：世界で一番受けたい授業（不登校）
3	4月26日	朝の会、教採漢字、教育時事③いじめ DVD：おはよう日本、令和3年度調査（ネットいじめ増加） DVD：世界で1番受けたい授業（加害者から見たいじめ）
4	5月3日	朝の会、教採漢字、教育時事④暴力行為・自殺 DVD：いじめの予防（ピアサポート） DVD：小学校の対教師暴力増加（クローズアップ現代） DVD：自殺（おはよう日本、令和3年度調査結果）
5	5月10日	朝の会、教採漢字、教育時事⑤生徒指導、イエナプラン、なごや子ども応援委員会 DVD：イエナプラン、スクールカウンセラー
6	5月17日	朝の会、教採漢字、教育時事⑥コンプライアンス、教員わいせつ防止新法 DVD：コンプライアンス DVD：教員わいせつ防止新法
7	5月24日	朝の会、教採漢字、教育時事⑦がん教育、生命の安全教育 DVD：がん教育 DVD：生命の安全教育
8	5月31日	教育実習
9	6月7日	教育実習
10	6月14日	教育実習
11	6月21日	教採漢字、教育時事⑧愛知県体力テスト7年連続最下位 DVD：愛知県体力テスト最下位
12	6月28日	朝の会、教採漢字、場面指導・模擬授業の仕方について
13	7月5日	朝の会、教採漢字、場面指導（2年生と合同）
14	7月12日	朝の会、教採漢字、場面指導（3年生と合同）
15	7月19日	朝の会、教採漢字、模擬授業（2年生と合同）

なお、取り上げた内容としては、「令和の日本型学校教育」「GIGAスクール」「新学習指導要領」「小学校教科担任制」「教育のICT化」「LGBT」「教員の働き方改革」「わいせつ教員対策新法」「アフターコロナ」等であり、いずれも教員として知っておかなければならない基礎的事項であり、それに対して自分としてどのように考え、取り組みかについての取掛かりとなるよう期待している。

教師を目指す学生たちは、こうした事項について、現在テレビや新聞、インターネット等において頻繁に取り上げられており、かつまた学校現場などで実際にどのようなになっているのかを如実に知る必要がある。また、そこで映像を通して具体的視覚的に学ぶことにより、現状認識の度合いも高まることを念頭に置いて、極力それらに関連したテレビ報道のニュース等をダビングしたDVDを視聴させるよう心掛けた。このような学習活動により、学校現場の一端の動画を見ることを通じて学ぶことで、学生の認知度、記憶力もレベルアップしたと考えたい。

その後、時間の許す限り、過去問に当たり、本日の内容についての知識の修得の確認に努めた。時間の関係上、復習・予習は学生の授業後の裁量に委ねた。

## 3.2 PART II

教育実習後、PART IIに入ったが、この時期になると中学校、高校の学校現場での経験、生徒との日々の触れ合いの中で学習指導、生徒指導、学級経営の一部も経験したこととも相まって、教職への意識も相当高まってきている。さらに、身近に教員採用試験が迫っているため、モチベーションもアップしてきている。

ただ、場面指導については、多くの自治体が2次試験で課しているため、この段階で2次対策まで用意周到に準備している学生は少なく、この段階ではまだ2次試験対策の手解きと言ったほうが正直正しいかも知れない。そこで、学生には予め各自が取り組むテーマ（題目）の選択させるとき、模範解答を教えておいて、そのうえで各自自分なりのやり方で場面指導を演じるように指示した。

場面指導は、本来教師として生徒指導や学級経営の指導力を見るものであり、教育実習や学習ボランティア程度の経験しかない現役学生にとっては、些か厄介な課題である。ある程度、その知見や基礎的な知識技能について修得し、予備的な練習を積み重ねないと、なかなかクリアできない性格を有している。この段階では、おそらく多くの学生が初めての場面指導の体験であり、戸惑いも多く、これからの学習の深まり次第という印象を受けたのは事実である。

なお、場面指導を行った学生の感想は、次の通りである。

### 【Aさん】

私は、場面指導を通して様々なことを学んだ。その中の3点について述べる。

1つ目は、リアクションや表情である。場面指導をするうえで、声のトーンや抑揚、大きなリアクションをすることで、その場面を見ている側はより想像しやすいことが分かった。教育実習で、教師として指導をする際は笑顔を作ったり時には怒ったり演技することが大事という事を教えてもらった。場面指導でも、喜ぶ演技や時には怒る演技が必要だと再確認できた。

2つ目は、何を伝えたいのかははっきりさせることである。結局、子どもたちに何を伝えたいのかははっきりさせないと、子どもたちも先生は何が言いたかったのかが曖昧になり、締めが悪くなる。そこでは、何を伝えたいのか明確に持つ重要さを学んだ。

3つ目は、場面指導は、練習の大切さである。場面指導を後輩の前で見せる前に何度も練習をした。その練習の過程で仲間と見せ合ったりしたが、仲間から様々な意見が出て様々なことを学んだ。また、事前に練習しておくことで、本番でもあまり焦ることがなかったので、練習は大切であることを学んだ。場面指導を通して、教員としてどのような態度で入れれば良いのか、何を伝えれば良いのかが分かり、とても勉強になった。このことを採用試験に活かしていけるように今後も練習していきたい。

### 【Bさん】

今回初めて場面指導をしてみて感じたことは、伝えることの難しさです。後輩の前で練習する前に、〇〇さんや△△さんと練習をしたのですが、自分の中では意識しているつもりでも、思っていたより伝わっていないのだと感じました。そして、それは2人の練習や他のゼミ生の場面指導を見ていても同じことを感じました。声のトーンや表情、相槌など大げさにやらないと自分の伝えたいことは伝わらないことが分かりました。

また、誰か相手を想像することが大事だと思いました。実際には、誰もいない状態で行いますが、誰か相手をイメージしてその子なら何て答えるかな、何て声を掛けてあげたらいいかなというのを考えながら行くと、対応しやすかったです。今回は、考える時間がたくさんある中で行いましたが、実際は短い時間の中でしか考えることができません。イメージを持つことと、何を伝えたいのかを明確にすることを意識することを学びました。

## 【Cさん】

実際に場面指導を行ってみて、3分間で自分をどう表現し、自分の良さを最大限出すことが難しいということをもっと実感した。特に大切だと学んだことが2点ある。

1点目は、自分の持ち味を十分に発揮し、かつ謙虚に誠実さを示すことが大切だと感じた。3分という短い時間で生徒や先生、保護者から信頼を得たり、助けてもらいたいと思わせたりするには、「うん」「うなづく」「同じ」、「ありがとう」といった共感する言葉掛け、生徒にどうなってほしいのかという自分の熱意を、とにかく言葉や表情で見せることが大切だと学んだ。実際の現場経験がない私は、熱意をとにかく伝えることが大切だと感じた。

2点目は、教師自身が、正しい言葉遣いをするのが大切だと感じた。子どもたちへの指導はもちろん大事だが、まずは教師がお手本とならないといけないと感じた。話し方やトーン、表情など、コミュニケーションの取り方で、その人の印象が決まるといっても過言ではない。先生の行動や思いは生徒に伝わるので、言葉遣いから気を付けていきたい。

## 4. おわりに

以上述べてきたように、4年次春学期における専門演習Ⅲの取り組みは、単に教採対策のみならず教師としての実践的指導力の基礎を培い、養成段階における教師としての資質能力の修得が問われる側面を有している。最終的には、それが教員採用試験の結果として解答が出るとも言えなくはない。幸いここ数年ゼミの合格者数に関しては、小学校のブラック化という“追い風”もあって、何人かの合格者を輩出できるようになっている。

最近では、本学においても教員を志願する学生が激減しており、ブラック化の影響をもろに受けていることは事実である。また、中高の教員志望者の減少のみならず、本学と提携を結んでいる玉川大学の小学校通信課程においても希望者が減少している。体育の小学校教科担任制、小学校35人学級編成、小中一貫教育、さらには保健体育指導のできる小学校教員の必要性など、有利な条件が一杯あるにもかかわらず、このような有利さを生かしきれないもどかしさを感じる今日この頃である。

これまで長年教員養成に携わってきたが、殊更重要に思うのは、やはり初任教員の学級経営に対する取り組みが教育学部以外の開放制に基づく教員養成課程において脆弱なことである。教職大学院においては、設置以来、理論と実践の往還を教員養成のスローガンを掲げ、各大学院が「教員養成スタンダード」を創設して、従来弱点とされてきた大学で学んだ理論を学校現場（実習校）において実践し、かつふりかえりを同時並行的に行うことを積み重ねてきている。また、これは授業における学習指導に留まらず、生徒指導や学級経営の面においても成果を蓄積してきている。

今日、こうした実績を基にして、さらに最新鋭の教員養成の先端を走ろうとしているフラッグマンシップ大学の取り組みも提唱されてきている。これらの大学における試みはさておき、本学部を含む開放制の多くの大学の教職課程では、「初任者が教員としての基礎的な力を十分身に付け、……教員養成段階において、教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力を育成する」（中央教育審議会、2012, p.3）ことが、喫急の課題として求められているのは紛れもない事実である。大前（2014）が「教員養成課程において『学級経営の方法』を修得させることを目指した講義内容と方法の提案」において指摘しているように、学校に赴任して取り組む仕事のほとんどすべてが、大学で習ったことのない初めて教わることであり、最初の1週間では、多くの初任者が学級開きへの事務的準備で精一杯であるというのが真実である。1年間を見越した学級経営計画を立てるなどの学級経営を充実させるための方策に時間が取れないまま、学級開きに至っている。引いては、これが学級崩壊につながる危険を伴う。教員養成課程を有する多くの大学においては、必ずしも学級経営に特化した講義は用意されていない。それに加えて、学級

経営の方法を学生に修得させるためには、どのような内容、方法で教授すれば良いのかが今まさに問われているのである。このような観点から結論を言うと、学級経営に関する理論や方法について初任教員が、まず1年目に現場で対応できる内容を大学独自の教職科目として設置し、学生に修得できるよう便宜を図らなければならないのである。

これまで述べてきたように、学級経営スタート時の指導が大学における教員養成においては、特に欠如している。そうした科目を設定している大学でも、学級開き直後の子どもへの挨拶や係・当番の決め方、初対面の子どもへの対応に留まっている。他方学校現場では、「黄金の3日間」と言われるように最初の1週間で学級目標や学級の仕組みをつくることや、学級のルール、マナーの徹底、いじめ防止の指導等、学級経営スタート時の指導が殊の外重視されている。

大前（2014）の言うように、学級経営をどのように進めれば良いかについて、理論と技術・方法が必要である。1年目に現場教員として教壇に立ち、担任を持ち、学級経営をしていくうえで必要な事項とそれに関する基礎的基本的な資質能力を身に付けさせ、1年目の現場への適応がスムーズにいく力量の涵養を今こそ図るべきである。

そのためには、学生たちがある程度の学校現場での経験、教育実習やインターンシップ、学校ボランティアなどの経験を基に、事例研究やロールプレイなどの模擬体験活動を授業において行う必要がある。勿論、こうした点については、本学においても4年次秋学期に開講されている教職実践演習の中で、教育実習のふりかえりや実習で行った授業の再検討やそれに基づく模擬授業、学級経営計画案の見直し等で実践力の構築の試みもなされている。さらには、教員養成コアカリキュラムの導入に伴い、教職に関する知識技能の修得の徹底を目指して体系的な教員養成への取り組みの構築されていないわけではない。「未だ道半ばである」という現状認識を踏まえ、今後開放制の下で教員養成に携わる我々の一層の努力が求められる次第である。

## 引用・参考文献

- 中央教育審議会. (2012). 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について (答申).  
[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/08/30/1325094\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/08/30/1325094_1.pdf)
- 中村健一. (2021). 策略:ブラック新卒1年目サバイバル術. 明治図書.
- 大前暁政. (2014). 教員養成課程において「学級経営の方法」を修得させることを目指した講義内容と講義方法の提案. 心理社会的支援研究, 5, 55-74.